

ミステリ読書案内

2023. 1. 3 発行元

第433号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

「このミス2023」を見て!

『このミステリーがすごい! 2023年版』が出た。昨年のミステリを振り返り、そして自分の読書を振り返る良い機会。『このミス2023』の記事を土台にして、少し考えてみよう。どんな年だったかな?

ベストテン作品、読了は0冊

毎年同じことを書いているが、私は単行本の新作は決まった作家以外ほとんど買わないので、毎年のベストテンに入る作品は読んでいないことが多い。今年は、読了なんと0冊。こんな年も珍しい。

見るとベストテンに文庫本は一冊もなく、シリーズものもほとんど入っていない。『同志少女よ、敵を撃て』はあまりに有名になり過ぎ、ベストセラーになり過ぎて、私としては「もう少し落ち着いてから読もう」と考えていた。

ベスト20までの作品で読了は2冊、ベスト35までで7冊である。本当に世の中の流れに付いていけないと感じる数値だ。

新刊で読んだのは102冊

巻末の新刊リストをチェックしてみると、この一年間に出た新刊のうち私が読んだのは102冊。ほとんどが文庫本のシリーズものである。馴染みの作家の読み慣れた作品を読んでいるということ。正に年寄りの読書の典型だと思う。

年間に450冊くらい読んでるので、そのうちの100冊が新刊。100冊が昨年、一昨年あたりの読

み落とした作品で、図書館でも開架書棚で定位置に納まるようになってきたもの。単行本はここで借りないともとお金が続かない。

残りの200冊以上は10年～20年前の古い本をブックオフの110円コーナーなどで買ったもの。相変わらず、森村誠一、斎藤栄、梓林太郎、赤川次郎、和久俊三などの未読本の発掘をやっている。「こんな読書に意味があるのか?」と疑問に思われるようなことに真剣に取り組んでいるのが現状。

ベストテン順位に異議なし

今年の『このミス』ベストテンの書名を右上の箱枠に示したが、この順位についてはまったく異議はない。何しろ読んでいないので何も言えない。図書館に入ったならすぐに読みたいと思うのは『爆弾』『捜査線上の夕映え』『大鞠家殺人事件』あたりかな。

ベストテン以下の作品について少しだけ。阿津川辰海、大山誠一郎などの作品については既にこの『ミステリ読書案内』で紹介している。笠井潔の『煉獄の時』はその本の厚さに圧倒され、価格に圧倒され、まだ手に入れていない。

東川篤哉の『仕掛島』は間もなく

『このミス』今年のベストテン

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 爆弾 | 呉 勝浩 |
| 2. 名探偵のいけにえ | 白井智之 |
| 3. 捜査線上の夕映え | 有栖川有栖 |
| 4. 方舟 | 夕木春央 |
| 5. プリンシパル | 長浦 京 |
| 6. 爆発物処理班の遭遇したスピン | 佐藤 究 |
| 7. 同志少女よ、敵を撃て | 逢坂冬馬 |
| 8. 大鞠家殺人事件 | 芦辺 拓 |
| 9. 地図と拳 | 小川 哲 |
| 10. リバー | 奥田英明 |

読むと思う。その他の作品についてはもう少し考えてから。私好みの作品かどうかを見極めて…。

私が頼りにしているブックリスト

私が『このミステリーがすごい!』の記事の中で最も必要としているのが巻末のブックリスト。地方に住んでいるとどうしても見落としの本がある。それをチェックする大事なリストなのである。

今年のリストは益々字が小さくなり、読むのが大変。年を取ると目が思うようにはいかない。ページ数を増やして見やすくしてくれると有難いのだが。値段が上がるのは気にならないから。

年々知らない作家が増えている。多くはライト系の人だと思うのだが…。『陰陽師…』みたいな題名の作品は本当にミステリなのだろうか…。見落としている本は大抵発行部数の少ない出版社のもの。地方の書店には回らないのか、それとも来ても1～2冊なのですぐになくなってしまおうのか…。

今年は「追悼・西村京太郎」の企画も

今年『このミステリーがすごい!』の中ほどには『追悼・西村京太郎』の記事が載っている。やはり西村京太郎が亡くなったことは日本ミステリの歴史の中では大きな出来事なのだと思う。有栖川有栖の文『トラベルミステリーならコレ!』では『寝台特急殺人事件』『蜜月列車殺人事件』『ミステリー列車が消えた』などが挙げられている。大山誠一郎の文『本格ミステリーならコレ!』では『殺しの双曲線』『消えたタンカー』『名探偵なんか怖くない』などが挙げられている。千街晶之の文『社会派ミステリーならコレ!』では『天使の傷痕』『D機関情報』『二つの首相暗殺計画』などが挙げられている。これらの記事を参考に、若い人たちにも西村ミステリを読んでもらい、再評価が進むことを期待している。巻末の新刊リストに西村京太郎作品は5冊。これで途絶えるのだと思うと誠に残念である。

今年『このミステリーがすごい!』の中ほどには『追悼・西村京太郎』の記事が載っている。